

万田坑を知ろう!

万田坑を知っていますか

110年ほど前に開かれた万田坑は明治から大正時代にかけて、日本の近代化を鉄鋼・造船とともに石炭産業で支えました。このことが評価され、万田坑は「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」の構成資産の一つとなっています。

いよいよ、ことし7月頃に開かれるユネスコ（国際連合教育科学文化機関）世界遺産委員会で世界遺産に登録されるかどうかが決まります。そこで、万田坑の歴史や現在行われている取り組みについて「炭鉱の街に住む犬 プー助」がお伝えします。改めて万田坑のことを考えてみましょう。



プー助が答える 炭鉱Q&A

- Q. 炭鉱で働く人たちはどんな家に住んでいたの？
- A. 炭鉱で働く人やその家族は会社の社宅・炭鉱住宅（炭住）に住んでいたんだよ。炭住の中には、共同のお風呂や売店などもあって、みんなで餅つきをしたり、運動会や盆踊りを行ったりして、まるで家族みたいだったんだって。でも、その炭住も今はなくなってしまったんだ。
- Q. 炭鉱住宅はどこにあったの？
- A. 万田・万田中央・井手川・緑ヶ丘地区などにたくさんの炭住があったんだ。それぞれに町名があって、桧・楓・董・若葉・山吹・鶯・向日葵・弥生など季節や植物の名前の町もあったんだ。とってもきれいな名前だよ。
- Q. 炭鉱住宅ではどんな暮らしをしていたの？
- A. 炭鉱は24時間操業していたので、三交代で仕事をしていたんだ。だから、炭住では朝4時半にサイレンが鳴ってみんな起こされていたんだって。お嫁さんたちは朝早くから薪でご飯を炊いて、お弁当を作っていたんだ。けれど、寝坊したときは近所の人にご飯を借りていたんだ。他にも、しょうゆやみその貸し借りなども行われていて、炭住で暮らす人たちは仲良しだったんだね。



▲1969年の四山社宅（撮影：高木尚雄さん）

万田坑市民ガイドになりませんか

短時間の見学者を案内するボランティア市民ガイドの育成を行います。国内外から訪れる観光客におもてなしの心で万田坑の魅力を伝えてみませんか。

- 日時 6月13日、27日、7月11日、25日、8月8日、22日、9月12日 すべて土曜 午後6時30分～8時
- ※全日程の受講が必要です。日時は変更になる場合があります。
- 場所 市役所や万田坑など
- 内容 万田坑と三池炭鉱の概要や歴史、ガイドの心得など
- 定員 30人
- 申込締切 5月22日（金）
- 申込方法 産業振興課に備え付けの申込用紙を提出。市ホームページからもダウンロードできます。
- 申込先 産業振興課観光推進室



▲カウントダウンイベント

世界遺産登録カウントダウンイベント募集

地域や市民団体などが行うイベントで市職員が世界遺産登録応援PRを行い、イベントを盛り上げます。詳しくはお問い合わせください。
閩秘書広報課戦略広報室 ☎ 63-1157

ご当地グルメ「石炭ゴロゴロ万田焼」誕生

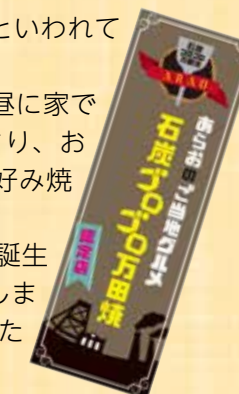


※イメージ

炭鉱の街には不思議とお好み焼き店がたくさんあったといわれています。

ボリュームがあって手軽に作れ、炭鉱で働く親たちが昼に家でゆっくり寝られるように、子どもたちは駄菓子屋に集まり、おやつにお好み焼きを食べていたそうです。陰ながら、お好み焼きは炭鉱の発展を支えたといえるかもしれません。

荒尾のご当地グルメとして「石炭ゴロゴロ万田焼」が誕生しました。市内8店舗が認定され、5月から販売を開始します。認定店は右ののぼりが目印です。荒尾の食材を使った石炭ゴロゴロ万田焼をぜひご賞味ください。



⇒世界遺産登録までの主な流れ⇒

2006年6月 九州地方知事会の政策連合項目として「九州近代化産業遺産の保存・活用」が決定	2009年1月 「九州・山口の近代化産業遺産群（旧名称）」がユネスコ世界文化遺産暫定一覧表に追加記載	2014年1月 「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」の推薦書正式版を政府がユネスコ世界センターへ提出	2014年10月 イコモスによる現地調査	2015年7月頃 ユネスコ世界遺産委員会で世界文化遺産登録の可否が決定
			2015年4月末～5月頃 イコモスによる評価結果勧告	

※国際記念物遺跡会議

あらお感動物語をお届けします

あらお感動物語には「プー助が見た荒尾炭鉱物語」の他にも荒尾梨の歴史などを伝える「荒尾花物語」やラムサール条約登録のきっかけとなったエピソードを伝える「荒尾干潟物語」があります。実はその二つの物語には炭鉱が深く関わっています。

出前講座で市民の皆さんに「あらお感動物語」をお届けします。講師が無料で伺います。詳しくは産業振興課観光推進室にお問い合わせください。

